

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	令和7年8月20日	評価結果市町村受理日	令和8年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2170600510-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業所が運営されているため、利用者やご家族の安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれ季節を楽しむことができます。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実現するために、家庭的な雰囲気を大切にしながら、利用者ひとりひとりの生活習慣や役割を尊重したケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は複数の介護事業を運営する医療法人社団である。事業所には、日本古来の和風の趣きを感じられる門構えや縁側があり、家庭的な雰囲気が感じられる。事業所は、理念である「思いやりがかよう同居人生活」を掲げ、利用者同士が馴染みの関係となっており、できる限り自立した生活を送れるよう支援している。利用者は、縁側でのんびり日向ぼっこをしたり、庭の花の手入れを楽しんでいる。母体の病院は、利用者が入居前からのかかりつけ医でもあり、入居後も安心して日々過ごすことができている。終末期においては、利用者や家族の希望によって、看取り支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おもいやりがかよう同居人生活」の理念を共有し、業務をしている	「思いやりがかよう同居人生活」を理念に掲げている。利用者が住み慣れた地域で、知人や友人と共に穏やかに暮らせるよう、全職員が思いを一つに実践している。朝、夕の申し送り会議等で支援を振り返りながら、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、移動スーパーに当ホームへ来て頂き、利用者自身で買い物をされたり、家族と買い物をして頂く機会を作っている	コロナ禍以前のような地域とのつきあいは難しいが、近隣住民とは挨拶を交わし、移動スーパーも利用している。地域の認知症カフェで、利用者と職員の共同作品を展示してもらうなど、利用者と共に事業所をPRすることができている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催している。民生委員、行政の担当者が参加されている。利用者家族の参加は、なかなか得られていない。地域の方々の様子や認知症についてなど、話し合いの場により、地域の現状などを知ることができ、新たな知識を得る機会となっている	隔月に開催する運営推進会議で行事報告や今後の予定などを伝え、参加者と意見交換している。現在、地域代表の参加はないが、行政担当者、民生委員、少数ではあるが家族の参加もある。運営にはさらに、地域の協体制が必要であり、地域代表者の参加を要請している。	今後も、地元自治会に運営推進会議への参加要請を継続し、地域密着型サービスの意義を地域に理解してもらいながら、地域との交流がスムーズに運ぶ関係作りに期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を開催することで、話し合いの場が増え、親しみやすくなり、相談や意見を頂いたりしている	運営推進会議には行政担当者の参加を得ている。会議の場で地域福祉の現状報告や介護保険制度の動向等を聞き、運営の参考にしながらサービスにつなげている。日頃から困難事案を相談したり、意見や助言を得るなど協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで3か月に1回拘束適正委員会を開いている。拘束について、職員同士で疑問を意見交換し、検討、理解、意識的に判断し実施するよう取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、現場の状況、身体拘束の弊害についても意見交換しながら学んでいる。職員間でケアの疑問点を出し合い、改善策を話し合いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで3か月に1回虐待防止の推進会議を開いている。勉強会をし職員同士での確認や話し合いをしている。認知症の症状の理解や対応、ストレスや疲労などの影響を考慮し、情報共有している	虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待防止法についての研修も行っている。管理者は、利用者の状況を把握した上で、職員がストレスを抱えていないか、疲労状態にないか気を配り、職員とコミュニケーションを図りながら、虐待防止に努めている。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会をし、内容の共有をしている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、説明書などを用いて十分な説明を行い、理解・納得が得られるよう図っている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。家族の来所時や電話で家族の意見や要望などをきいたりしている。月に1回、利用者の様子を書面で報告している	事業所と家族が両輪となって、利用者を支援できるよう、担当職員が、毎月、利用者1人ひとりの評価基準、特記事項を詳細に記入した報告書を家族に送付している。送付後の意見交換の場も設けている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との会話や相談をうけたり、各ユニットの代表者と話し合い、意見交換の場を設け、反映している	管理者と各ユニットの代表者が意見交換を行っている。職員の意見や要望を吸い上げ、改善点や、支援方法について話し合いながら、運営に反映させている。勤続年数の長い職員も増えている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の実績などを把握し、必要時、職員個々と話し合いをしたり、シフトに要望を反映し、働きやすくいられるよう、向上心を持って、維持につながるように努めている	職員のシフト希望を受け入れ、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境が整備されている。母体が病院であり、パートも含めた職員の健康管理を行っている。休憩時間は職員同士の協力があり、適切に取れるようにしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアにいかせるよう、研修を受けるようすすめている。職員個々に合わせ、研修受講をすすめる、職員全体に研修を周知し、職員個々で希望の研修参加を進めている	質の高い利用者ケアを実践できるよう、職員が希望する研修受講を支援している。受講日はシフト調整をしながら出勤扱いにするなど、環境を整えている。研修終了後は報告会を行い、全職員が学べる機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内、ホーム内での勉強会への参加への取り組みをしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることを模索し、本人と話し合いの場を持ちながら、生活行動への参加や他者との関わりをもてるように、良好な関係となるように間に入ったりしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に思いや意思をきいたり、家族から情報を得たり、職員で本人としてについて話し合ったりしている	職員は、利用者が意見や希望が言いやすい雰囲気作りに努め、会話やしぐさ、興味のある話題などで声かけをしている。意思疎通が困難な場合は家族の協力を得て情報収集している。職員は知り得た情報を共有し、より良い支援に繋げている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、リハビリ、後見人など話し合い、意見をきき、相談している。だいたい3か月毎のカンファレンスで計画の見直しをしている	介護計画作りは、家族参加でのサービス担当者会議開催に努め、担当職員の報告をもとに、カンファレンス会議を開き検討している。来所できない家族には電話で意見を聞いている。関係者全員で検討しながら介護計画を作成、見直しも行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに記入し、申し送りノートや早急な見直しや実践の変更の検討の場合は、その日に話し合いの場を設け、職員間で情報共有している。ケアプランに反映している	利用者の日々の様子や状態変化を詳細に把握し、その内容を記録、勤務交代時には口頭でも伝えている。情報を職員間で共有し、情報漏れがないように努めている。ケアプランが個別記録と実践に反映できているか確認し、見直しにつなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の専門職にいつでも相談し指導を受けられる。利用者の買い物に行ったりしている	母体法人である病院と連携し、利用者の状態変化やリハビリの有無等、専門職と相談し適切な支援を行っている。また、利用者や家族のニーズに合わせ、買い物代行や行政手続き等を支援している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや研修生の受け入れをしていたが、コロナ禍となってから、受け入れを中止、見合わせている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が法人内の病院であり、定期的な往診や、状態により受診している。本人や家族が他院受診の意向がある場合は、受診時に家族の協力を得ている。歯科による往診の協力を得ている	母体法人は協力医でもあり、利用者は入居前からのかかりつけ医であった人が多い。入居後も定期的な往診を受けている。管理者は看護師であり、他にも看護師職員が在籍している。利用者の日常の健康管理を行い、法人の病院と連携しながら支援している。歯科医の往診を受けることもできる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報提供をし、入院生活へ継続できるようにしている。退院時、退院先について話し合いをし、情報共有している	入退院時の医療機関との対応は管理者が担当し、家族とも相談しながら、利用者が安心して治療を受けられるよう支援している。退院時には、医療機関と相談しながら、事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前確認書を基に、本人、家族などへ意向の確認と説明をし、方針の共有をしている。法人内の事業所と情報や方針を共有し、最後をホームでと願う方に日々の暮らしができるよう協力を得ている	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、本人・家族の同意を得ている。利用者の状態に応じて関係者で話し合いを重ね、方針を決定している。家族の希望を尊重し、看取り体制を整え支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会をし、職員間で話し合いをしている。実践の見直しやマニュアルの作成をしている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、避難訓練を実施している。	年2回、職員の役割担当を確認しながら、避難訓練を実施している。運営推進会議で訓練後の報告を行い、意見や助言を得ている。備蓄用の食品や飲料の賞味期限を確認し、水害時は、法人内施設3階に避難するとしている。	昨年の課題でもあった、災害時における協力体制作りを継続されたい。避難訓練の際には、地域住民に参加を依頼したり、地域で開催する防災訓練に事業所から参加する等、災害対策強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報交換し利用者ひとりひとりを尊重するよう、意識している。自尊心を傷つけないよう、否定するようなことは避けたり、勉強会をしている	個浴での入浴が困難になってきた利用者のため、リフト浴を導入し支援している。入浴や排泄支援時の声掛けや見守り等、本人の自尊心を傷つけないよう言葉遣いにも注意しながら支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や会話、行動などから判断し、寄り添いながら、思いをくみ取るように意識し、自己決定できるようにしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりのペースに合わせて声かけ、意見を確認しながら支援している。意思の確認が難しい利用者は、その方に合わせて過ごし方を支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけ、見守りをしながら利用者と食器を運ぶなど、準備や片付けをしている。各利用者の好みをリサーチし、イベントで提供したり、利用者と職員と一緒におやつを作っている	ご飯、汁物は事業所で調理し、副食は配食サービスを利用している。利用者の状態に併せて、適切な食事形態で提供している。おやつ作りは利用者と一緒にするなど、食べる楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注を利用しているが、利用者の食事の様子や食べる量など確認し、栄養バランスはとれている。食事や水分の形態や量、道具、提供のタイミングと生活リズム、状態などからその方に合うようにしている。管理栄養士とその方にあつた物を相談し支援している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方にあつた口腔ケアをしている。歯科の協力のもと、その人の口腔内の状態やケアの指導をいかし、口腔ケアをしている	協力歯科医による定期健診があり、口腔ケアの指導や、必要に応じて往診を受けている。毎食後の口腔ケアは、職員が磨き残しの確認も行うが、自分で出来る人は見守りで支援している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを探り、トイレの見守りや付き添い、介助し、トイレでの排泄を心掛けている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回入浴できるようにしている。時間配分は、各利用者に合わせて入浴して頂いている リフト浴を導入、個々に対応している		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添えるようにしている。昼寝の時間をもうけていたり、眠れない方は、話し相手となったり、飲み物を提供するなどしている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で薬剤の理解に努めている。薬による生活の様子や薬の影響による状態の変化、薬によっては効果の程度の確認をしている。異常があれば医師に報告している。服薬の介助をしたり、誤薬に注意をしている	薬の管理はユニットリーダーが行い、服薬支援は複数の職員で行っている。利用者が確実に飲み終えたことを見届け、空袋の点検も行なうなど、誤薬や飲ませ忘れないよう努めている。薬の変更時は全職員に周知し、利用者の体調変化の観察を徹底させている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ラジオ体操をしている。食器洗いやたたみ物、掃除や拭き仕事など役割を持っていただいている。塗り絵や歌会、新聞を読むなど気分転換など図っている	利用者の今までの経験、好きな事、やりたい事の把握に努めている。庭の手入れ、清掃、食後の後片付けの手伝いなど、役割りとして出来るよう支援し、作業後には感謝の声かけをしている。また、ニュースや新聞記事を話題に、気分転換も図っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩やドライブに行くこともある。コロナ禍以降、本人と家族の体調をみながら、感染について家族に説明し、いつでも出かけて頂けるようにしている	利用者の健康状態や天気の良い日は、周辺を散歩したり、日当たりの良い縁側で外気浴を楽しんでいる。家族の協力で、ドライブや外出を楽しむ利用者もある。今後も、年間外出計画を立て、支援を具体化できるよう取り組むとしている。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によってお金は、家族や後見人がしている。自己管理されている方は職員が付き添い、買い物先で本人が支払いをされる		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、いつでも使用できるようにしている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が好きなところで過ごせる。中庭があり、自由に散策できる。季節により、木々の景色が変わり、果物もなることで、季節感を取り入れている。共有空間は、季節や時期ごとに飾り付けを工夫し実施している	事業所の庭には柿の木や紅葉樹があり、季節を感じる事が出来る環境にある。リビングは吹き抜けの天井となっており、圧迫感のない環境である。陽の当たる縁側や畳スペースもあり、利用者は好きな場所で寛ぎ、リハビリを兼ねて廊下を歩く人もある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間にソファや椅子を置いたり、中庭のベンチを活用し、ひとりで過ごしたり、座席の配置を配慮し利用者同士で過ごしていただけるようにしている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内を飾ったり、本人や家族と相談し、ソファやテレビ、机などを置き、過ごしやすいようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をし、目線のところに目印をつけたり、障害物がないか確認し、安全に過ごせるようにしている		